Rinnai® システムキッチン用［ビルトインコンロ］
ガスクックトップ®
設置説明書

型　　式	型式の呼び
RB32AM2H2S	RB32M2HS-L
RB32AM2FS	RB32M2FS-L

◆設置される方へのお願い

- この機器を安全に正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みになって指定された設置を行ってください。
- 設置が終わったら 6 設置後の点検確認 のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。
- 設置終了後は、この「設置説明書」と「取扱説明書」をいっしょにして必ずお客様にお渡しください。

製造者　リンナイ株式会社

ページ

1 安全に正しく設置していただくために ―― 2～4
2 寸法図 ―― 5
3 同梱部品の確認 ―― 6
4 コンロの設置 ―― 6～11
5 ガス配管工事・ガス配管接続工事 ―― 11
6 設置後の点検確認 ―― 12
7 試点火および試運転 ―― 12

1 安全に正しく設置していただくために

機器を安全に正しく設置していただくためや、設置作業者や使用者への危害や財産への損害を未然に防止するためにこの説明書では、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示について次のような意味があります。

一般的な警告・注意　一般的な禁止　必ず行う　分解禁止　換気必要

特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

⚠警告

■設置は必ず、この「設置説明書」と「ガス機器の設置基準および実務指針」（日本ガス機器検査協会刊）に従う

変則的な設置をすると事故や火災の原因となります。

確認

■この機器を安全に正しくご使用いただくために、この「設置説明書」をよく読み、指定された設置を行う

確認

■ガス配管接続には専門の資格・技術が必要です

金属管や金属可とう管などによる機器へのガス配管接続工事・取りはずし工事は必ず有資格者が行ってください。

確認

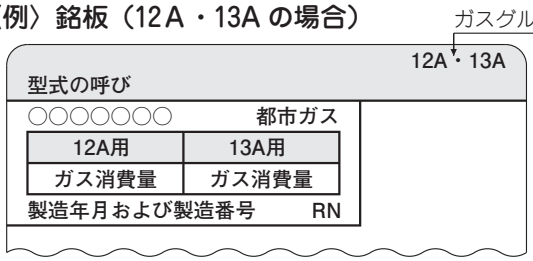
⚠注意

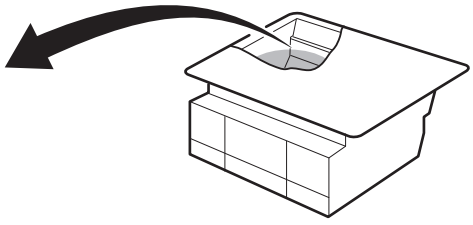
■設置する機器が使用するガスの種類（ガスグループ）に適合していることを銘板で確認する

合っていない場合そのまま使用すると火災や不完全燃焼により、一酸化炭素中毒になったり、爆発着火でやけどしたりすることがあります。また故障の原因にもなります。
銘板は機器の本体内部左後方に張ってあります。

ガスの確認

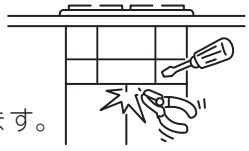
〈例〉銘板（12A・13A の場合）





■絶対に改造・分解は行わない

設置で必要なところ以外は絶対に改造・分解は行わないでください。
一酸化炭素中毒のおそれがあります。また、火災の原因になるおそれがあります。



分解禁止

■この機器は一般家庭用です

業務用として使用しないでください。機器の寿命が極端に短くなります。

禁止

⚠注意

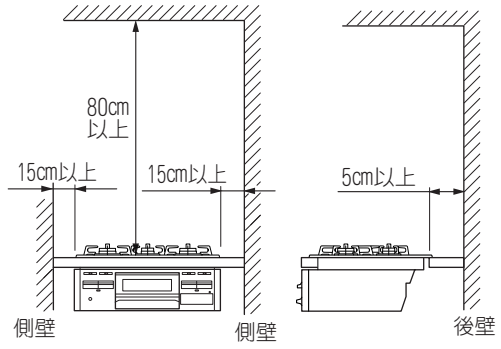
■設置するときは可燃物との距離を確実に離す

・可燃物との距離を確実にとる（下図参照）
・守れない場合は別売の防熱板を取り付ける

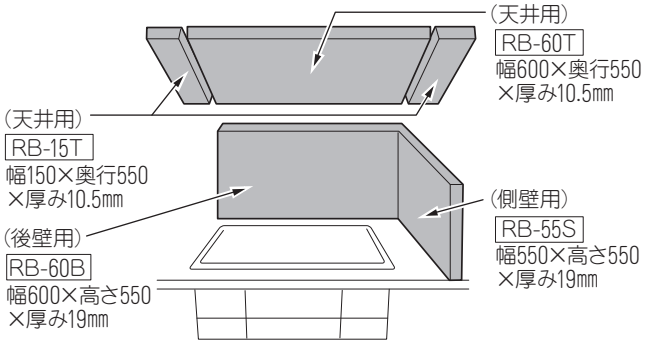
●火災予防条例で定められています。必ず守ってください。
距離が近いと火災の原因になります。また可燃性の壁にステンレス板などを、直接取り付けてご使用になっても、熱伝導で長年の間に可燃物が炭化し火災になることがあります。

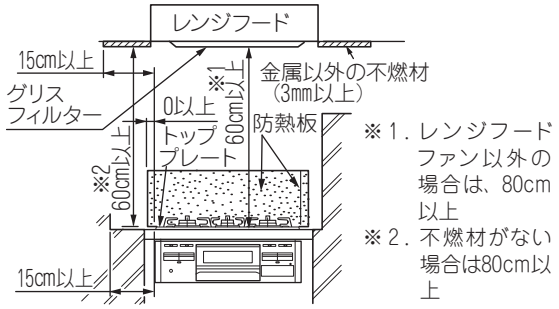
●周囲に可燃物（木製の壁、棚など）のある場合は次のようにしてください。
トッププレートより上の側面は15cm 以上、後面は 5 cm 以上、上部はトッププレート上面より80cm 以上離して設置します。

●可燃性の壁（ステンレス板などを張り付けた可燃性の壁も含む）から側面は15cm以上、後面は 5 cm以上、また、上部はトッププレート上面から80cm以上離して設置できない場合は壁面に別売の防熱板を取り付けてから設置します。 調理台・ 流し台の側面などが可燃性で機器のトッププレートより高い場合も、流し台側面を保護してください。



防熱板（別売）





※1．レンジフードファン以外の場合は、80cm以上
※2．不燃材がない場合は80cm以上

※防熱板については、お買い上げの販売店、またはもよりの当社事業所にお問い合わせください。

■設置するときは、下記の項目に注意してください

●前記の設置基準は、共同住宅など（戸建て専用住宅、共同住宅、店舗併用住宅の住宅部分であり、営業用および一般事業所の従業員食堂、学校、病院の給食用等の以外のもの）の用途の建築物であり、また排気方式が、各住戸の厨房用ダクトが単独排気方式の場合に適用されます。

●設置場所を決めるときは、お客様とよく相談してください。

●燃焼機器を設置する場所には、建築基準法や火災予防条例に定める防火措置を施してください。

●この機器を設置される台所が、建築基準法に定める（内装制限を受ける調理室）に該当する場合は、台所全体についても内装材の制限を受けます。

●水平で安定した場所に設置してください。

●指定の防熱板を必ず使用してください。

●車両・船舶には設置しないでください。

●排気口をステンレスの水切りカバー（水返しカバー）などでふさがないでください。

●十分に換気のできるところに設置してください。

●水のかかるところには設置しないでください。

●機器のまわりや上に、スプレー缶・プラスチック・油・紙類などを置かないでください。

●棚の下など落下物の危険のあるところには設置しないでください。

●湯沸器や樹脂製の照明器具の下へ設置しないでください。

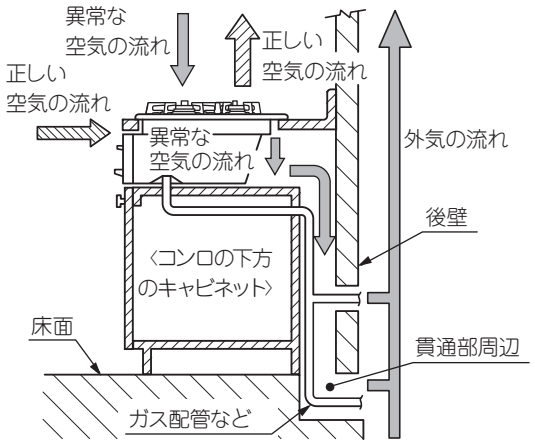
●強い風が吹き込む場所や機器本体後方から風が吹き込む場所には設置しないでください。
（点火しなかったり、温度センサーや立消え安全装置が正しく働かないことがあります。）

⚠注意

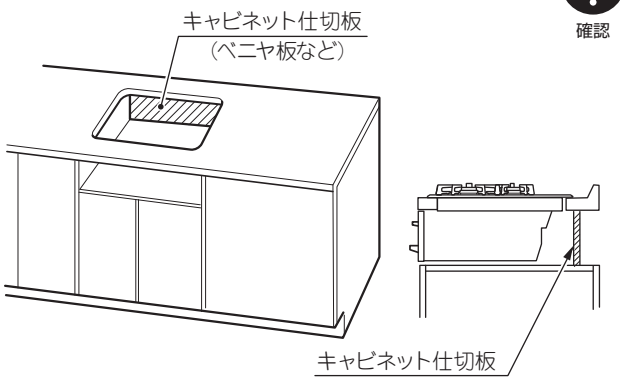
■キャビネットに背板があるか確認する

ベニヤ板などにより機器の後方をふさいでください。

キャビネットに背板がないと、ガス管などの配管貫通部で内気と外気がつながり、異常な空気の流れが起こるため、炎がもぐりこんだり、消火したり、不完全燃焼することがあります。



キャビネット仕切板設置例

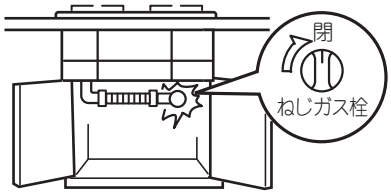


確認

■設置後、長期間使用しないときはガス栓（ねじガス栓）を閉める

ガス栓（ねじガス栓）は機器下方または、となりのキャビネット内にあります。

ガス事故防止のため必ず行ってください。



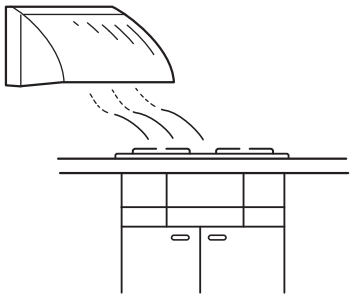
ガス栓を閉める

■十分な換気設備がある場所に設置する

この機器にはレンジフードファンが必要です。

設置するガス機器および同一室内に設置してある他の機器のガス消費量に対し、十分な換気設備がある場所に設置してください。

ただし、室内給気式（FE･CF）給湯器・ふろがまを使用している場合は、レンジフードファンを回すと排気ガスが逆流して一酸化炭素中毒の原因になるため、注意が必要です。



換気必要

■機器設置の際には必ず手袋をする

けがの防止になります。

確認

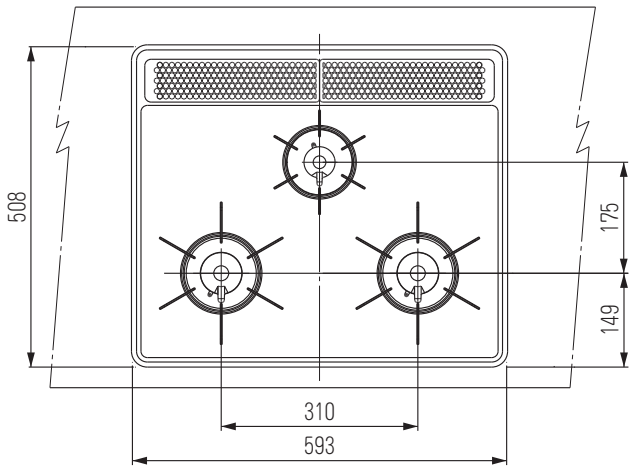
お願い

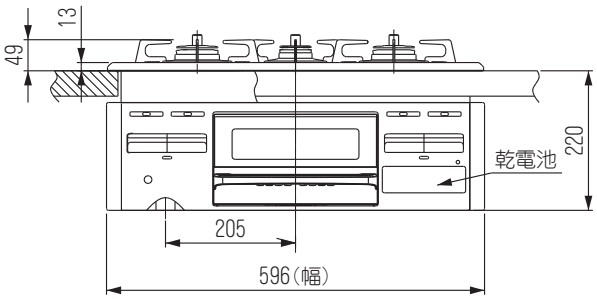
- ◉本体をタイルやモルタルで、塗り込まない。
- ◉耐久性などの点から、できるだけ湿気の少ないところに設置する。
- ◉ワークトップ材は熱硬化性樹脂化粧板（JIS・K・6903）またはこれと同等以上の材料を使う。
- ◉表面がニス引きのものは変色するおそれがあるので使用しない。
- ◉本機器を大型ゴミなどで廃棄される場合は、必ず乾電池を取りはずしてください。
  そのままにしておきますと、思わぬ事故になります。

2 寸 法 図

1．外形寸法図

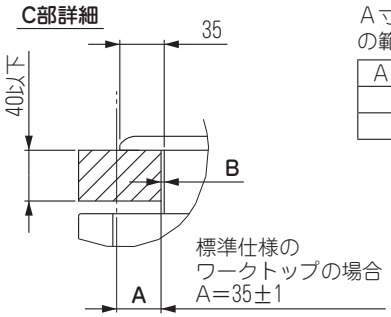
（単位：mm）

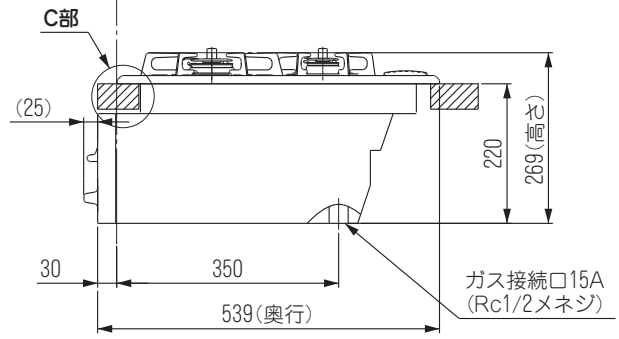




注）セットフリータイプなので
A寸法は「15±1～35±1」
の範囲で設置できます。

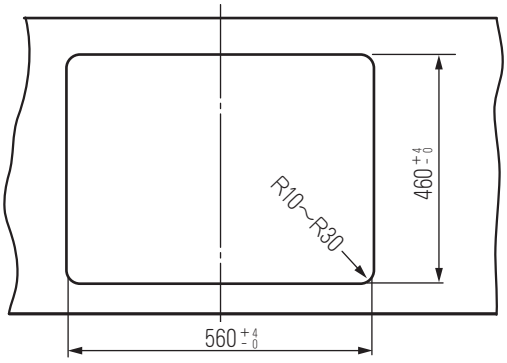
A寸法	B寸法
35	2.5
15	22.5



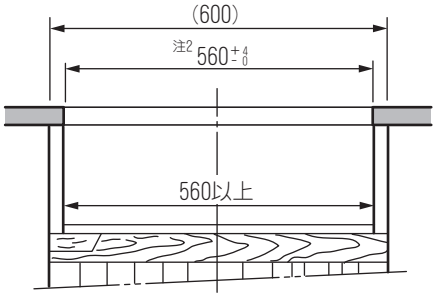


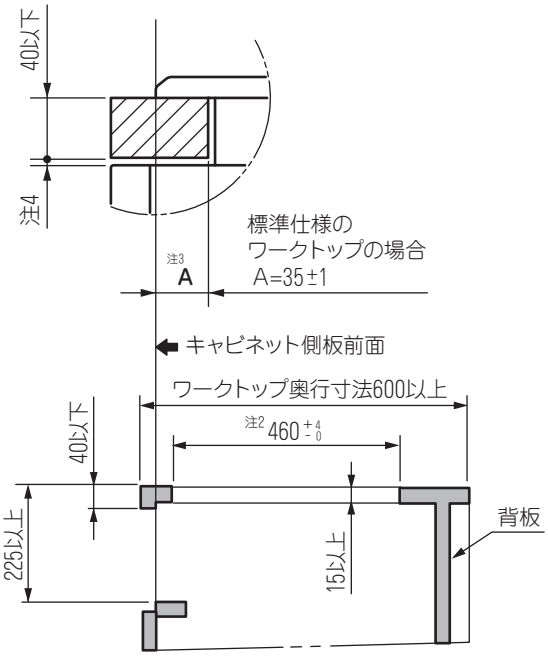
2．キッチン組み込み寸法図

（単位：mm）



ワークトップ切り込み寸法





注1　高さ寸法はワークトップ上面からの寸法です。

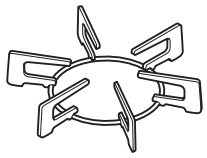
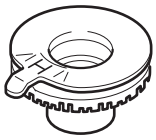
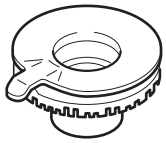
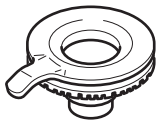
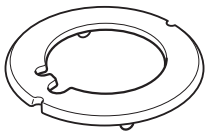
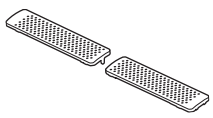
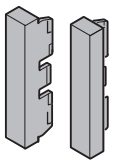
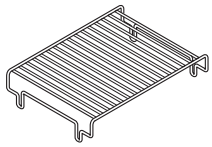
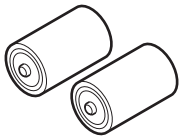
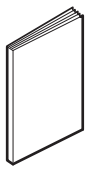
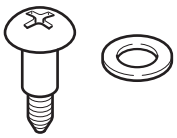
注2　ワークトップ開口寸法です。公差内になるよう加工してください。

注3　A寸法は15～35mm の範囲で設置できます。

注4　機器設置時において、空気が流れるようにワークトップ下面（パッキンなどを含む）と本体上面とのすき間を必ず 3 mm 以上確保してください。

3 同梱部品の確認

① 部品の不足がないことを確認する。

部品名	ごとく(大)	ごとく(小)	バーナーキャップ(大)	バーナーキャップ(標準)	バーナーキャップ(小)
形 状	×2 		 (H刻印)		
部品名	バーナーリング(大)	バーナーリング(小)	排気口カバー	エンドピース	グリル焼網
形 状	×2 				
部品名	単1形アルカリ乾電池	取扱説明書	トッププレート固定ねじA	トッププレート固定ねじB	
形 状			×2  (パッキン付)	×6	

◉設置用取っ手を持って、機器を段ボール箱より取り出してください。

4 コンロの設置

1．開梱・機器の取り出し

① 開梱して機器を取り出す。 図1

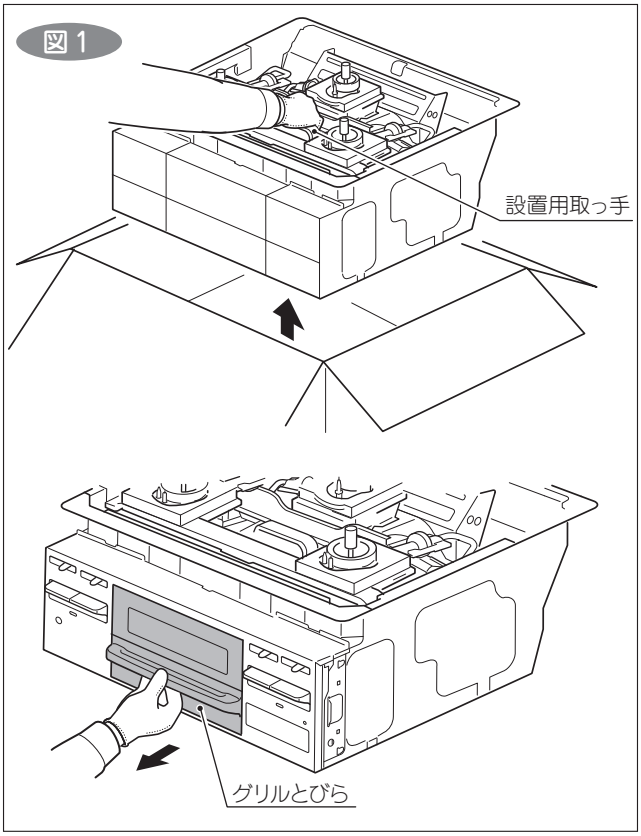
◉輸送のため各部品にあて紙や包装部材がありますので、全部取り除いてください。

※必ず設置用取っ手を持ってください。本体側部を持って機器を持ち上げると、本体側部が変形してトッププレートが浮き上がる原因となります。

② グリルとびらを取りはずす。

◉包装部材を取りはずして、グリル焼網を取り出してください。

図1



2．コンロの設置

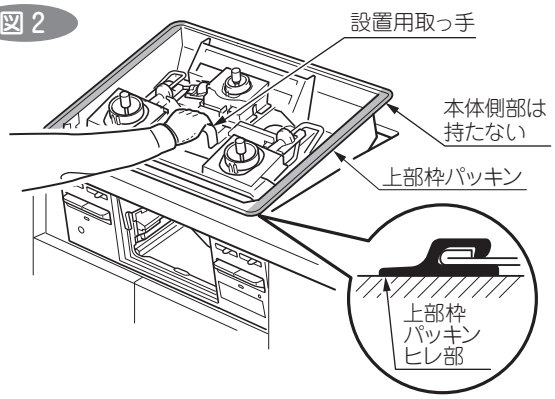
① コンロを組み込む。 図 2

◉ビルトインコンロの設置用取っ手を持ち、前面を先に挿入して、前パネル・つまみなどに傷がつかないよう注意しながら、コンロを組み込みます。

◉組み込み時は必ず設置用取っ手を持って組み込んでください。

※本体側部を持たないでください。バーナー・バーナー支えなどの燃焼部品を持って組み込むと燃焼不良の原因になります。

図 2



お願い

◉上部枠パッキンが本体からはずれていないか確認してください。

◉必ず上部枠パッキンのヒレ部が丸まっていないか確認してください。（特にコーナー部）丸まっている場合は、丸まりを直してください。

3．グリルとびらとエンドピースの取り付け

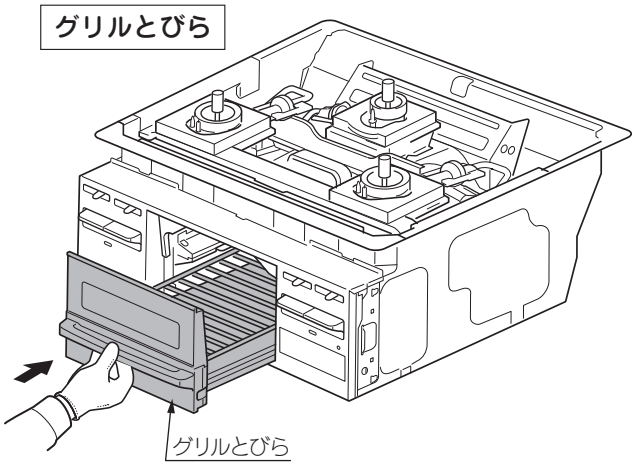
●詳しくは、取扱説明書を参照してください。

◉エンドピースの上下凸部をパネル側面の穴に差し込んでください。

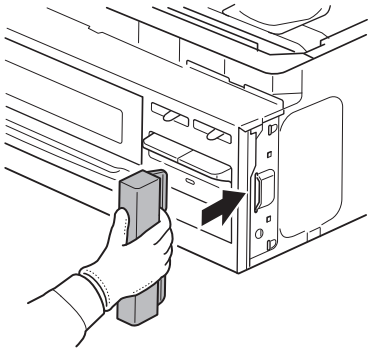
◉エンドピースは左右共通です。

図 3

グリルとびら



エンドピース



4．コンロの固定

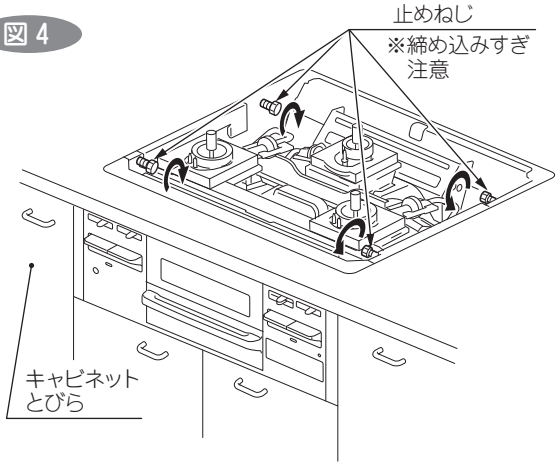
① コンロをワークトップに固定する。 図 4

◉コンロを固定する前に、コンロの前面とキャビネットとびらの前面が合うようにコンロの位置を調整してください。

◉本体側面についている止めねじ 4 本を回して、コンロを動かない程度に固定してください。

※締め込みすぎると、ワークトップを壊したり、コンロが変形したり、トッププレートが浮く原因になります。

図 4



〈使用工具〉

プラスドライバー、スパナ（呼び８）、ペンチ

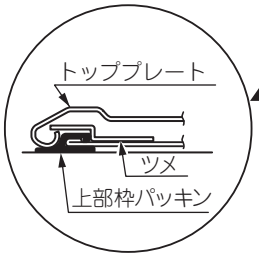
◉スパナがない場合は、ペンチ・プライヤー・ラジオペンチなどで止めねじの六角部をはさんで、ねじを回してください。

※工具を使用する際には、バーナーに傷をつけないようにしてください。

5．トッププレートの取り付け

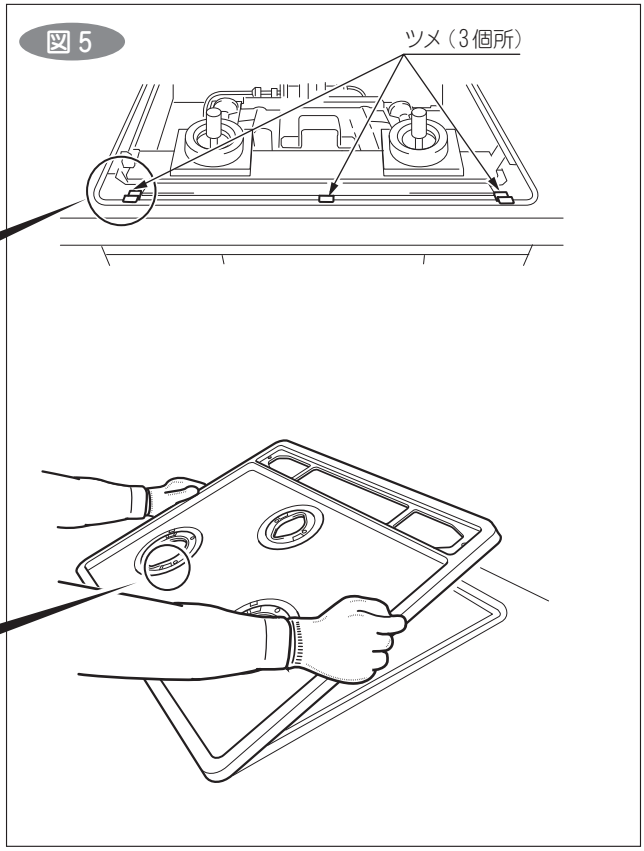
① トッププレートを取り付ける。 図５

◉トッププレートの手前を本体手前のツメ（３個所）に引っかけ、上部枠パッキンにはめ込んでください。



※トッププレートを取り付けたときに、本体側の角穴がトッププレートの角穴でかくれていないか確認してください。

図５



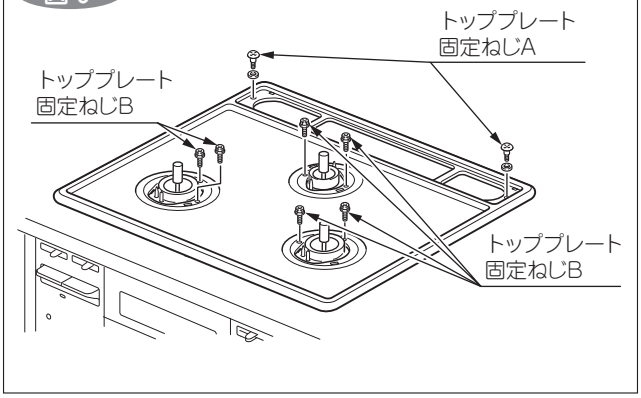
② 同梱してあるトッププレート固定ねじＡ２本とトッププレート固定ねじＢ６本で固定する。

図６

お願い

◉バーナーを傷つけたり、点火プラグを曲げたりしないよう注意してください。

図６



⚠注意

■トッププレートは確実に取り付ける

■トッププレートの取り付けは浮きがないように上部枠パッキンに確実にはめ込む 図８

確認

取り付けがかたい場合は上部枠パッキンを本体側に押し込んでなじませてください。

■上部枠パッキンのヒレ部が丸まっていないか必ず確認する

ヒレ部が丸まっている場合は丸まりを直してください。 図７

⚠注意

図 7

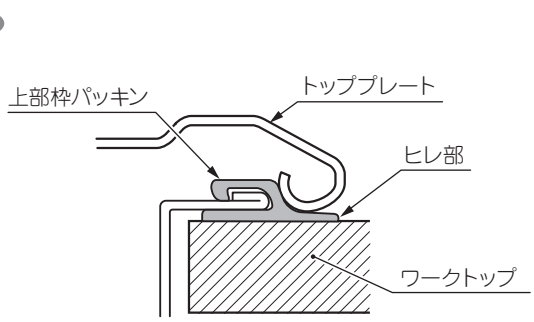
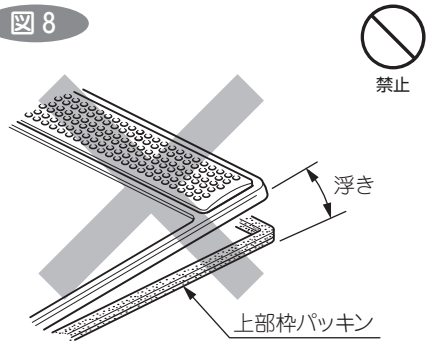


図 8



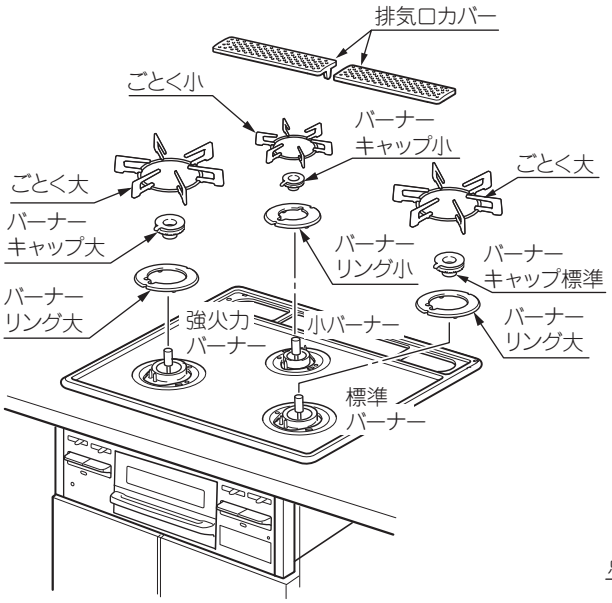
6．部品の取り付け

●詳しくは、取扱説明書を参照してください。

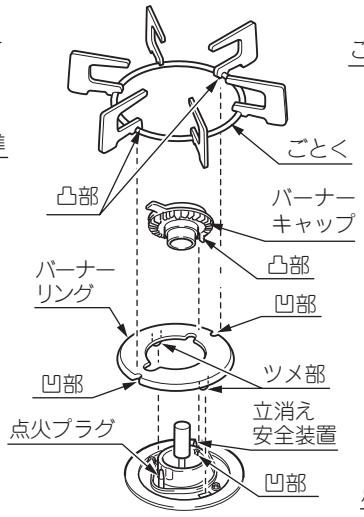
◉バーナーリング、バーナーキャップ、ごとくは、下図のように正しく取り付けてください。

※図は強火力バーナーが左側の機器です。強火力バーナーが右側の機器は強火力バーナーと標準バーナーが逆になります。

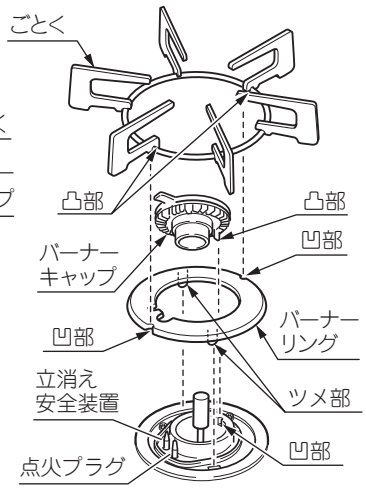
図 9



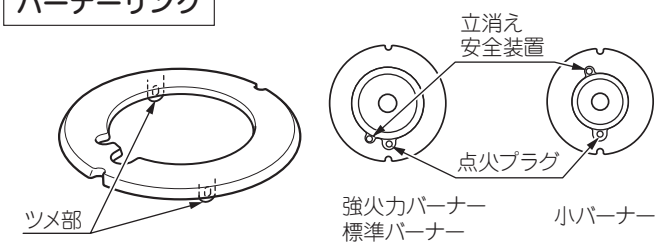
小バーナー



標準バーナー・強火力バーナー

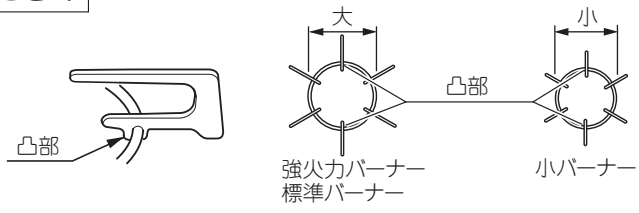


バーナーリング



◉ツメ部を下にして、点火プラグや立消え安全装置をバーナーリングのそれぞれの穴に通すように、正しく取り付けてください。

ごとく



◉ごとく内側の凸部 2 個所をバーナーリング前後の凹部 2 個所に入れて正しく取り付けてください。

バーナーキャップ

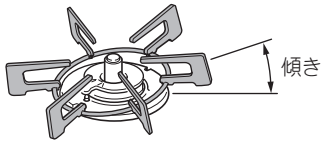
◉凸部を前にしてバーナー本体後側の凹部にバーナーキャップのピンを入れて正しく取り付けてください。

※強火力バーナーのバーナーキャップには、Hの刻印が表示してあります。

⚠注意

■ごとくは誤った取り付けで使用しない

誤った取り付けをするとなべなどが不安定になり、傾いたり、倒れたりします。

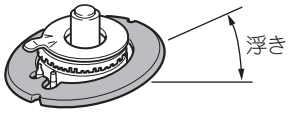


誤った取り付けの例

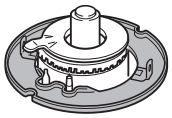
■バーナーリング、バーナーキャップは誤った取り付けで使用しない

バーナーリング、バーナーキャップを正しく取り付けないと

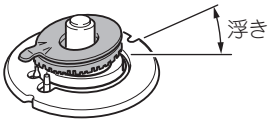
- 点火しない場合があります。
- 炎のふぞろいや逆火で、不完全燃焼や一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- 機器の中に炎がもぐりこんで、焼損する原因になります。



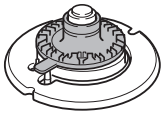
バーナーリングの浮き



バーナーリングの裏返し



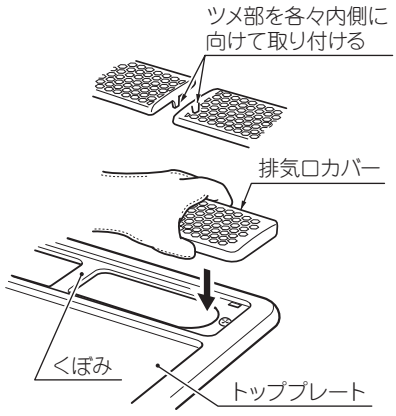
バーナーキャップの浮き



バーナーキャップの裏返し

排気口カバー

◉ 2つの排気口カバーのツメ部を各々内側に向けトッププレートのくぼみに取り付けてください。



7．乾電池の取り付け

●詳しくは、取扱説明書を参照してください。

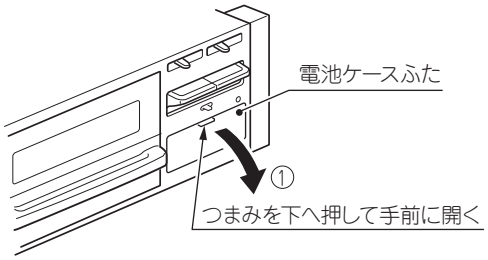
図10

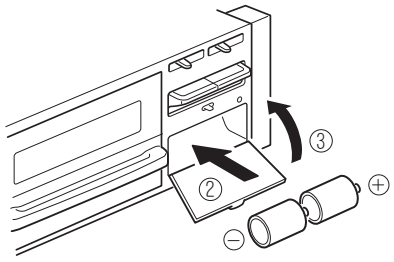
① 電池ケースふたのつまみを下へ押して手前に開いてください。

② 単1形アルカリ乾電池（1.5V）2個を図のように⊕⊖を確認して奥まで確実にはめ込んでください。

③ 電池ケースふたを元に戻してください。

図10





単1形アルカリ乾電池（2個）

8．ガス配管工事・ガス配管接続工事

◉ 5 ガス配管工事・ガス配管接続工事 を参照して、ガス配管工事およびガス配管接続工事を行ってください。

◉必ず、ガス漏れ検査を行ってください。

5 ガス配管工事・ガス配管接続工事

⚠警告

■ガス配管接続には専門の資格・技術が必要です

確認

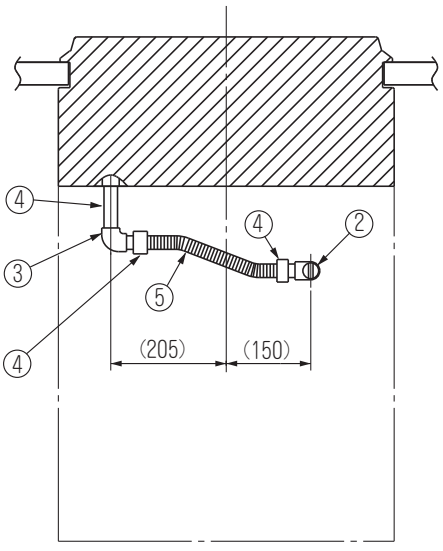
- ●接続の際はガスシール材を必ず使用してください。
- ●ガス栓（ねじガス栓）を必ず取り付けてください。
- ●接続完了後、ガス漏れのないことを確認してください。
- ●取りはずした部品は必ず取り付けてください。

① コンロの配管方法

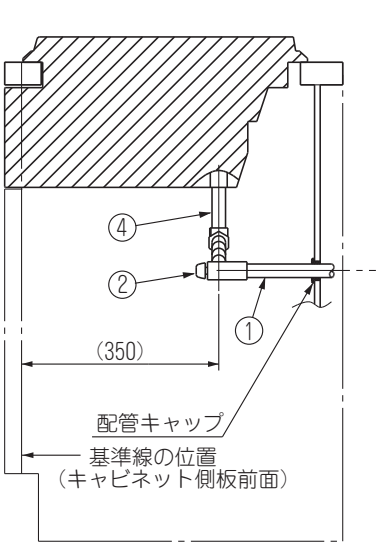
◉ガス配管接続は金属可とう管または金属管接続してください。

◉配管周囲のすき間をなくすように、配管キャップなどを取り付けてください。すき間が大きいと消火したり、炎がもぐりこんだりして異常過熱の原因になります。

（単位：mm）



正面図



側面図

No	配管仕様
①	ガス管（R1/2）
②	ねじガス栓
③	エルボ（Rc1/2）
④	ニップル（R1/2）
⑤	金属可とう管

標準配管例

6 設置後の点検確認

◉チェックリストに基づいて確認してください。

点検項目		点検内容	参照項目	チェック
機器およびその周辺	ガス種	使用するガス種に適合しているか。（銘板確認）	1	
	可燃物との離隔距離	可燃物との離隔距離、火災予防上の措置は十分か。	1	
	水平設置	水平に設置されているか。	1	
	安定設置	ガタツキはないか。	1	
	換気設備	十分換気できる場所に設置されているか。	1	
キャビネット		キャビネットに背板があるか（機器後方に穴があいていないか）	1	
ガス配管接続工事		ガス漏れはないか。	5	
ラベル貼付		接続員の設置者ラベルおよび連絡先のステッカーを貼付したか。		
同梱部品		部品の不足はないか。また正しく取り付けられているか。	3	
その他		グリル庫内に包装部材が残っていないか。		

7 試点火および試運転

① 試点火および試運転

◉正しく設置されていることを確認してからガス栓（ねじガス栓）を開き取扱説明書に基づき、試運転を行ってください。

② 試運転終了後の処置

◉試運転終了後長期間使用しない場合は、ガス栓（ねじガス栓）を閉め、乾電池を取りはずしてください。

③ お客様への説明

◉必ず取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。

◉必ず取扱説明書の保証書に必要事項を記入のうえ、保証内容を説明してください。

◉取扱説明書、取付・設置説明書の保管のお願いをしてください。